

京都社会学年報

第 7 号
1999年12月

《論 文》

- 植民地における近代的統治に関する社会学
——後藤新平の台湾統治をめぐって——
野村 明宏
- 疾患と名づけの間
——骨粗鬆症を事例として——
西村 大志
鍋倉 聡
- シンガポールにおける団地研究史の再検討
メディアの帝国
——ナチズムの文化政策と政治美学——
田野 大輔
- アウトドアブームの環境社会学的考察
——自然認識の構造を手がかりとして——
井戸 聡
- 「満洲」経験の歴史社会学的考察
——「満洲」同窓会の事例をとおして——
坂部 晶子
- 過疎地域活性化にみる都市-農村関係の諸相
——「ターン」移住者を巡る地域のダイナミズム——
高木 学
- 戦間期ドイツにおける世論研究の試み
——テンニース「世論批判」の再検討——
宮武美知子
- ある<占領経験>の社会学的考察
——沖繩軍政における住民統治の変容と民主化運動の諸様態——
石原 俊
- はじまりの認識論のために
——モース「身体技法論」に見る認識の発生論——
倉島 哲
- 二つの「時代病」
——神経衰弱とノイローゼの流行にみる人間観の変容——
近森 高明
- G.H.ミードにおける「主我」と主体性
——ラカン精神分析の見地から——
渡邊 拓也

《書評論文》

- 役割からの離脱
——現代社会におけるアイデンティティ形成の一側面——
Helen Rose Fuchs Ebaugh, *Becoming an EX: The Process of Role Exit*
水野 英莉
- テレビ・オーディエンスの能動性
Roger Dickinson, Rawaswami Harindranath and Olga Linne (eds.),
Approaches to Audiences: A Reader
鍵本 優
- 交錯する「女性」
——レイス/エスニシティとジェンダー——
Mary Maynard and June Purvis (eds.),
New Frontiers in Women's Studies: Knowledge, Identity and Nationalism
菊地 夏野
- ルーマン理論における近代像
Niklas Luhmann, *Beobachtungen der Moderne*
小島 剛
- ゴフマンとそのテキスト
Greg Smith (ed.), *Goffman and Social Organization: Studies in a sociological legacy*
西川 知亨

[編集規定]

1. 本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年1回発行する。
2.
 - 1) 本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。
 - 2) 編集委員会は本研究室の教官および大学院生代表者により構成される。
 - 3) 編集委員会に関するその他の細目は別に定める。
3. 本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。
4.
 - 1) 本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教官、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。
 - 2) 投稿に関する細目は別に定める。
5. 論文等は、未公開のものに限る。
6. 論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。
7.
 - 1) 論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。
 - 2) 執筆要項は別に定める。

京都社会学年報

京都大学文学部社会学研究室

第7号
1999年12月

目次

〈論 文〉

- 植民地における近代的統治に関する社会学
——後藤新平の台湾統治をめぐる—— 野村 明宏 1
- 疾患と名づけの間
——骨粗鬆症を事例として—— 西村 大志 25
- シンガポールにおける団地研究史の再検討 鍋倉 聰 43
- メディアの帝国
——ナチズムの文化政策と政治美学—— 田野 大輔 63
- アウトドアブームの環境社会学的考察
——自然認識の構造を手がかりとして—— 井戸 聡 81
- 「満洲」経験の歴史社会学的考察
——「満洲」同窓会の事例をとおして—— 坂部 晶子 101
- 過疎地域活性化にみる都市-農村関係の諸相
——Iターン移住者を巡る地域のダイナミズム—— 高木 学 121
- 戦間期ドイツにおける世論研究の試み
——テンニース『世論批判』の再検討—— 宮武美知子 141
- ある〈占領経験〉の社会学的考察
——沖縄軍政における住民統治の変容と民主化運動の諸様態—— 石原 俊 155
- はじまりの認識論のために
——モース「身体技法論」に見る認識の発生論—— 倉島 哲 179

- 二つの「時代病」
 ——神経衰弱とノイローゼの流行にみる人間観の変容——
 近森 高明 193
- G.H.ミードにおける「主我」と主体性
 ——ラカン精神分析の見地から——
 渡邊 拓也 209
- 〈書評論文〉
- 役割からの離脱
 ——現代社会におけるアイデンティティ形成の一側面——
 Helen Rose Fuchs Ebaugh, *Becoming an EX: The Process of Role Exit*
 水野 英莉 225
- テレビ・オーディエンスの能動性
 Roger Dickinson, Rawaswami Harindranath and Olga Linne (eds.),
Approaches to Audiences: A Reader
 鍵本 優 235
- 交錯する「女性」
 ——レイス/エスニシティとジェンダー——
 Mary Maynard and June Purvis (eds.),
New Frontiers in Women's Studies: Knowledge, Identity and Nationalism
 菊地 夏野 243
- ルーマン理論における近代像
 Niklas Luhmann, *Beobachtungen der Moderne*
 小島 剛 251
- ゴフマンとそのテキスト
 Greg Smith (ed.), *Goffman and Social Organization: Studies in a sociological legacy*
 西川 知亨 259

＜執筆者紹介＞（掲載順）

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページをご参照ください。
アドレスは<http://www.socio.kyoto-u.ac.jp>です。

- 野村 明宏 博士後期課程3年次 国民国家研究、社会思想史。（「ネイションの民族的起源」「歴史社会学のフロンティア」筒井清忠編、1997年、人文書院。「近代のなかのネーション／ネーションのなかの前近代——ネーション・ステイト研究における近代主義と永続主義」『京都社会学年報』第5号、1997年。【翻訳】グレアム・ターナー 「カルチュラル・スタディーズ入門——理論と英国での発展」（共訳）、1999年、作品社）。
E-mail：nomura@socio.kyoto-u.ac.jp
- 西村 大志 博士後期課程3年次 文化社会学・身体社会学。教育や医療の場における身体および子どもの問題に関心をもつ。（「日本の近代と児童の身体——座る姿勢をめぐって——」『ソシオロジ』第42巻2号、1997年、「戦後大衆文化と「わたし」——子どもの遊びを通して——」鶴飼・永井・藤本編『戦後大衆文化論』京都造形芸術大学1999年、「語りから会話へ——あるアメリカ人留学生のライフヒストリーと身体——」京都大学留学生研究会編『ライフ・イベント 語られる留学』、1999年）。
- 鍋倉 聡 博士後期課程3年次 比較社会学、エスニシティ論、多文化主義論。とくにシンガポールをはじめとする東南アジア都市地域をフィールドとした研究。現在、シンガポールでフィールドワーク中。（論文「多文化主義におけるエスニシティの編成：『フォーマル・エスニシティ』とシンガポール『多人種主義』」『京都社会学年報』第5号、1997年、書評論文「華人アイデンティティの多元的ダイナミズム」『京都社会学年報』第2号、1994年）。E-mail：nabe@socio.kyoto-u.ac.jp
- 田野 大輔 研修員 政治社会学・大衆社会論。ナチズムにおける大衆の問題を政治文化論的観点から考察する一方、その理論的枠組の構築をめざす（「第三帝国における『民族共同体』——意味空間の政治文化論的考察」『ソシオロジ』119号、1994年、「〈労働者〉の誕生——ドイツ第三帝国における身体と政治」『ソシオロジ』124号、1995年、「モータリゼーションへの意志——ナチズムにおける自動車と近代性」、『京都社会学年報』第5号、1997年、「大衆のモニュメント——『総合芸術作品』としてのナチズム」『京都社会学年報』第6号、1998年）。
E-mail：daisuke@socio.kyoto-u.ac.jp

- 井戸 聡 博士後期課程 2 年次 環境社会学・地域社会論。農山村社会に生起する開発や保安、自主管理などの問題を人々の環境認識、自然観などとの連関をもとに考察している（「近代化の風景—環境認識の地域社会学—」【京都社会学年報】第6号、1998年、「地域社会の共同性の創出—徳島県の環境問題の経験から—」【ソシオロジ】134号、1999年）。
E-mail : ido@socio.kyoto-u.ac.jp
- 坂部 晶子 博士後期課程 2 年次 文化社会学・植民地論。とくに具体的な相互作用場面における主体形成の問題に関心をもつ。（「日本人の海外旅行—わたしたちは今どこにいるのか—」鶴飼正樹・永井良和・藤本憲一編『戦後大衆文化論』京都造形芸術大学1999年、書評論文「主体の可能性としてのクリエイティブティ」【京都社会学年報】第2号、1994年）。
E-mail : sakabe@socio.kyoto-u.ac.jp
- 高木 学 博士後期課程 2 年次 地域社会学。過疎活性化研究。都市から過疎地域へのIターン移住に関するフィールド調査に基づいた研究。（「離都向村の社会学」【ソシオロジ】137号 掲載予定）。
E-mail : takagi@socio.kyoto-u.ac.jp
- 宮武 実知子 博士後期課程 2 年次 メディア論・社会意識論。メディアが媒介する社会意識、特に世論という概念の歴史的・理論的解明を目指す。（「メディア—新聞・雑誌・放送」【歴史社会学のフロンティア】筒井清忠編、1997年、人文書院、書評論文「マクルーハンの近代再考」【京都社会学年報】第4号、1996年）。E-mail : miyatake@socio.kyoto-u.ac.jp
- 石原 俊 博士後期課程 1 年次
日本学術振興会特別
研究員 地域社会論、人種主義・国民国家研究、植民地主義の歴史社会学。沖縄・小笠原など、軍事占領下に置かれた地域社会の研究。日・米植民地主義におけるレイシズム・ネイション等にかんする研究。また、社会(科)学における歴史記述の問題について方法論的関心をもつ。（「軍事占領をめぐる知の重層的編成—沖縄における〈歴史の収奪〉—」【ソシオロジ】第44巻1号、1999年、「沖縄の近現代史を考える」（共著）【インパクション】103号、1997年）。E-mail : ishihara@socio.kyoto-u.ac.jp
- 倉島 哲 博士後期課程 1 年次 理論社会学・文化社会学。身体技法への構築主義的アプローチの批判的考察を行ういっぽう、現代文化における身体技法のありようのフィールドワークをとおして、それに代わる枠組みの構築をめざす。（書評「社会学理論における身体観の二元論—自然主義的身体観と社会構築主義的身体観を超えて—」【京都社会学年報】第5号、1997年）。E-mail : akira@socio.kyoto-u.ac.jp
- 近森 高明 博士後期課程 1 年次 文化社会学。明治・大正期の都市文化を近代性との関わりにおいて考察（書評「モダニティと大衆文化—世紀転換期のメディア・装置・施設」【京都社会学年報】第5号、1997年）。E-mail : tak@socio.kyoto-u.ac.jp

- | | | |
|-------|-----------|--|
| 渡邊 拓也 | 修士課程 2 年次 | 理論社会学・逸脱論。逸脱に対してラカン精神分析の視座から理論的アプローチを行っている。
E-mail : takuya@socio.kyoto-u.ac.jp |
| 水野 英莉 | 修士課程 2 年次 | ジェンダー論。スポーツや娯楽の場における性差のエスノグラフィー。E-mail : mizuno@socio.kyoto-u.ac.jp |
| 鍵本 優 | 修士課程 1 年次 | 文化社会学。オーディエンス研究。文化現象をメディアの受け手という観点から考察。
E-mail : keybook@socio.kyoto-u.ac.jp |
| 菊地 夏野 | 修士課程 1 年次 | ジェンダー論・社会運動論。現在において「女性」とは何を表しているのか、とくに国家や民族など複数の領域の重なる局面におけるその表れを考察。
E-mail : natsuno@socio.kyoto-u.ac.jp |
| 小島 剛 | 修士課程 1 年次 | 理論社会学。N・ルーマンのシステム理論に興味がある。 |
| 西川 知亨 | 修士課程 1 年次 | ミクロ社会学。ゴフマンを中心とした相互作用秩序の理論の研究。E-mail : tomoyuki@socio.kyoto-u.ac.jp |

京都社会学年報 第7号

1999年12月25日発行

- | | |
|-----|---|
| 編 集 | 京都社会学年報編集委員会
(編集代表 宝月 誠) |
| 発 行 | 京都大学文学部社会学研究室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2751・2749 FAX 075-753-2836 |
| 製 作 | (株)北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38の2
TEL 075-791-6125 |

《 Editorial Regulations 》

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2.
 - i) This journal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.
 - ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.
 - iii) Details of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4.
 - i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.
 - ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7.
 - i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.
 - ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.

Kyoto Journal of Sociology

No.7 December 1999

ARTICLES

- Sociological Study on the Japanese Colonial Rule in Taiwan:
Shinpei Goto's Governmentality Akihiro NOMURA
- The Gap Between the Signifier and the Signified in Disease Diagnosis :
A Special Reference to the Disease 'Osteoporosis' Hiroshi NISHIMURA
- A Review of the Sociological Studies of Public Housing Estates
in Singapore Satoshi NABEKURA
- Das Reich der Medien:
Zur Kulturpolitik und politischen Ästhetik des Nationalsozialismus Daisuke TANO
- Environmental Sociological Study of Outdoor Boom :
Considering Structure of Natural Cognition Satoshi IDO
- A Case Study of "Manchurian Dousou-Kai (Reunion)" :
From the Perspective of Historical Sociology Shoko SAKABE
- Analyzing Phases of the Recent Phenomenon of
Urban Population Movement into Underpopulated Rural Areas Manabu TAKAKI
- Reconciler of Tönnies's Criticism on Public Opinion Michiko MIYATAKE
- An Sociological Inquiry into an "Occupation Experience" :
The Transformation of the Technology of Occupation in the Okinawa
Military Administration and Various Aspects of the Democracy Movements Shun ISHIHARA
- For an Emergent Social Epistemology :
A Heuristic Examination of Mauss's 'Techniques of the Body' Akira KURASHIMA
- The Two Maladies of the Era :
"Shinkeisuijaku(neurasthenia)" and "Noirôze(neuroses)" Takaaki CHIKAMORI
- The "I" in G.H.Mead and the subjectivity :
From the viewpoint of Lacan's psychoanalysis Takuya WATANABE

REVIEW ESSAYS

- Helen Rose Fuchs Ebaugh, *Becoming an EX : The Process of Role Exit* Eri MIZUNO
- Roger Dickinson, Rawaswami Harindranath and Olga Linne (eds.),
Approaches to Audiences : A Reader Yuu KAGIMOTO
- Mary Maynard and June Purvis (eds.),
New Frontiers in Women's Studies : Knowledge, Identity and Nationalism Natsuno KIKUCHI
- Niklas Luhmann, *Beobachtungen der Moderne* Takeshi KOJIMA
- Greg Smith (ed.), *Goffman and Social Organization :
Studies in a sociological legacy* Tomoyuki NISHIKAWA